

第10回でんでん祭り

～田んぼで生まれた文化を後世に伝えるプロジェクト～

主催：一般財団法人北方文化博物館



第10回でんでん祭り（6団体）



地域に伝わる六つの神楽の舞い比べ

稲作文化から生まれた「横越でんでん祭り」。でんでんという名前は「田」から生まれた文化と食を「伝」えたいという想いに由来しています。

豪農伊藤家に伝わる3人餅搗きの披露ふるまいや水と土が育んだ地元野菜を使用したとろろかき揚げうどんの販売などを行いました。また、亀田駅、荻川駅前～北方文化博物館を結ぶ無料送迎バスを特別運行し、当日は雨天にもかかわらず約1,000人の集客がありました。イベントの中でも、北方文化博物館のある横越地域の各集落に伝わる神楽が集結する競演ステージは見ごたえがありました。獅子頭をかぶったその出立ち、舞い手の人数、歌などはすべて異なり、お囃子に合わせた躍動的な演舞は迫力満点。神事としてはもちろん、芸能としての面白みにも溢れています。五穀豊穡祈願や厄災除けのために行われる神楽舞。横越地区の神楽舞が奉納されるのは、春と秋に各集落で行われる祭礼

のみとなり、年に一度のこの競演はとても珍しい催しです。記念すべき10周年の今年は、六つの神楽保存会が登場。雄と雌が舞う横越東町の神楽、茄子や南瓜やヒエなどの食材で毎年獅子頭を手づくりする木津の神楽、神楽に噛んでもらうことで子どもたちの健康を願う小杉の神楽、豊作の喜びを全身で表現する横越上町の神楽、金銀黒の歯をもつ三匹の獅子が飛び跳ねる川根谷内の神楽、神楽と天狗の闘いを演じる横越新田の神楽が競演を果たしました。古いものは約250年も前から横越地区それぞれの集落で受け継がれている「神楽」。米王国・新潟らしいこの貴重な伝統芸能を地域の子もたちや若い担い手に伝え、その背景にある物語とともに未来へ残していきたい想いとともに、これからも継続してプロジェクトを展開していきます。

●9月9日(日) 第10回でんでん祭り（北方文化博物館）